

2 本校のピア・サポート活動の紹介

I なかよし班活動

本校は、全校児童83名の小規模校である。少人数の良さを生かし、異年齢が全校でかわり合う活動を多く実施できた。

なかよし班活動は、83名の児童を5つの縦割りグループに分け、グループごと様々な活動を行うものである。

(1) 出会いの会〈提言6〉

4月23日に、1年生を迎える会を行った。2～6年生は、1年生の好みを考えたプレゼントを贈った。また、1年生のお礼の歌を真剣に聴く姿が印象的だった。

会の後半、なかよし班で輪くぐりゲームを行った。うまく輪をくぐるために、お互い声を掛け合う姿が見られた。

(2) SETOYA KIDS WALK (縦割り遠足) 〈提言6〉

本校から、びく石広場までなかよし班で遠足に行った。低学年に対して「あと少しだからがんばれ！」と声を掛ける姿が見られた。

到着した後、グループごと弁当を食べた。様々な学年がかかわり合いながら楽しく食べることができた。食べ終わった後は、みんなで遊び、充実した活動になった。

(3) なかよし遊び〈提言6〉

本校は毎月1回ずつ、昼休みや業間になかよし班で遊ぶ、『なかよし遊び』を行っている。6年生から順番に、持ち回りで遊びの内容を考えている。どんな遊びがよいかを考えることも他者を思いやることにつながったと考えられる。

12月は、2年生がなかよし遊びの担当になった。2年生が遊びの計画、説明をすることは、なかなか難しいことではないかと考えていた。しかし、当日の遊びが始まると、どの児童もあたたかな反応で説明を聴いており、2年生も安心して話すことができていた。

2年生にとっても、それ以外の児童にとっても大きな成長を得た活動になった。

II 学校活動 (行事、児童会活動、授業)

(1) 長縄〈提言5〉

本校は、より良い子どもたちの成長を図るために、『全校 長縄 県1位!』を目指し、長縄の8の字跳びにも取り組んでいる。

長縄を通して、

- ・自分たちはどんな力をつけたいのか
- ・どんな自分たちになりたいのか

を学級会を通して話し合い、回数だけにこだわるのではなく、目的意識をもって活動に取り組んでいる。

しっかりと意識をもち、練習を行うことで、互いに声を掛け合ったり、他の学年が跳んでいるときに「ファイト!」「がんばれ!」と応援をしたりする姿が多く見られた。このようななかかわりが、自分だけでなく、他者も大切にしようという、心情面の成長にも大きくつながっている。



(2) 自分からの木、花〈提言7〉

本校は、今年度から重点目標に『自分から行動』という言葉を追加し、児童の主体性を重点的に育もうと取り組んでいる。

この自分からの木、花は、児童会が計画した物である。友だちが自分から行動していた表れを花の形に切ったカードに書き込み、掲示したり、放送したりする。互いのよいところを認め合うことにつながり、児童の成長につながった。



(3) 2学年合同授業 (体育)〈提言4〉

本校では、体育やその他の学習において低中高2学年ずつ合同で授業を行う。

1, 2年の体育では、2年生がボールの投げ方や鬼ごっこでの逃げ方をアドバイスする姿が見られた。昨年度も同じように実践しているため、「今年はアドバイスする立場だ!」と張り切る2年生の姿が見られた。

Ⅲ 小中連携

(1) 小中合同体育祭〈提言1〉

瀬戸谷地区では、第7回目となる「小中合同体育祭」。中学生が中心となって、「結団式」「合同練習」「係打ち合わせ」などを行った。準備だけでなく、「デコボコメディシング」などの中学生と小学生の合同種目も多く、練習を通して、互いの絆、心情面での成長が見られた。



(2) 稲葉小との交流会〈提言4〉

11月に稲葉小との交流会を行った。2年生は、この交流会に向け、生活科の学習を通して、稲葉小の2年生に「瀬戸谷のいいところを紹介しよう」と学習を進めてきた。

いいところを探すための町探検の中で、『この遊具はおもしろそうだから、是非紹介したいな。』『このお店のお菓子が安いから聞いたらびっくりするぞ。』など、稲葉小の子どもたちを意識しながら、目的をもって探検に臨むことができた。

交流会に向けての準備も充実したものになり、当日もお互いに笑顔で関わり合いながら、活動する姿が見られた。

他者を意識するなど、目的意識をもつことで、学びの深まりと共に、心の成長も感じることができた。



Ⅳ 地域での取り組み

(1) どんぐりの会〈提言4〉

1、2、6年生が地域のお年寄りが集まる会に参加し、歌を歌ったり、ゲームで交流したりした。相手の立場に立って考え、ゲームの準備をしたり、ルールを考えたりすることができた。

3 本年度の成果と課題

今年度のピア・サポート活動で特に成果として感じたものは、子どもたちが主体的に活動して場面が多く見られた点である。

本年度は、すべての活動において、重点目標『自分から行動』を意識し、ピア・サポート活動も同じ意識で実践していった。

中でも運動会や長縄の練習では、6年生を中心に、アドバイスをし合ったり、励まし合ったりするなど、子どもたち自らが、どのように関わり合えばよいか考え、行動する姿がたくさん見られた。

自分から行動する意識をもつためには、

- ・目的意識をもつこと
- ・子ども主体の活動にすること

が大切になってくる。多くの活動で、子どもたち自らが考え、支え合い、関わり合う、非常に温かい雰囲気を作り上げることができたのは、子どもたちの頑張りや教師の手立ての両輪があってこそそのものだと思う。子どもたちも教師も本気・全力で今後も教育活動に当たっていききたい。

4 来年度に向けて

本校の子どもたちは、非常に温かな心をもっており、よい関わり合いをしながら日々を過ごしている。

その反面、一歩学校の外に出ると、消極的になりがちで面が多く、自分を出し切ることができない子も多い。

来年度は、学校外でのピア・サポートも意識することを通して、地域や周りのお世話になっている人に『感謝』の気持ちをもつことにも取り組んでいきたいと考えている。

そのためには、今年度以上に、

『活動が子ども主体のものになっているか』が重要になってくると考えられる。教師に促されて行う活動ではなく、子どもたち自身が考えた活動が、本当の意味で、その子の成長につながる。子どもたちの『自分から』を大切に、内面をもっと磨いていけたらと思う。

Vertical line

3 本年度の成果と課題

4 来年度に向けて